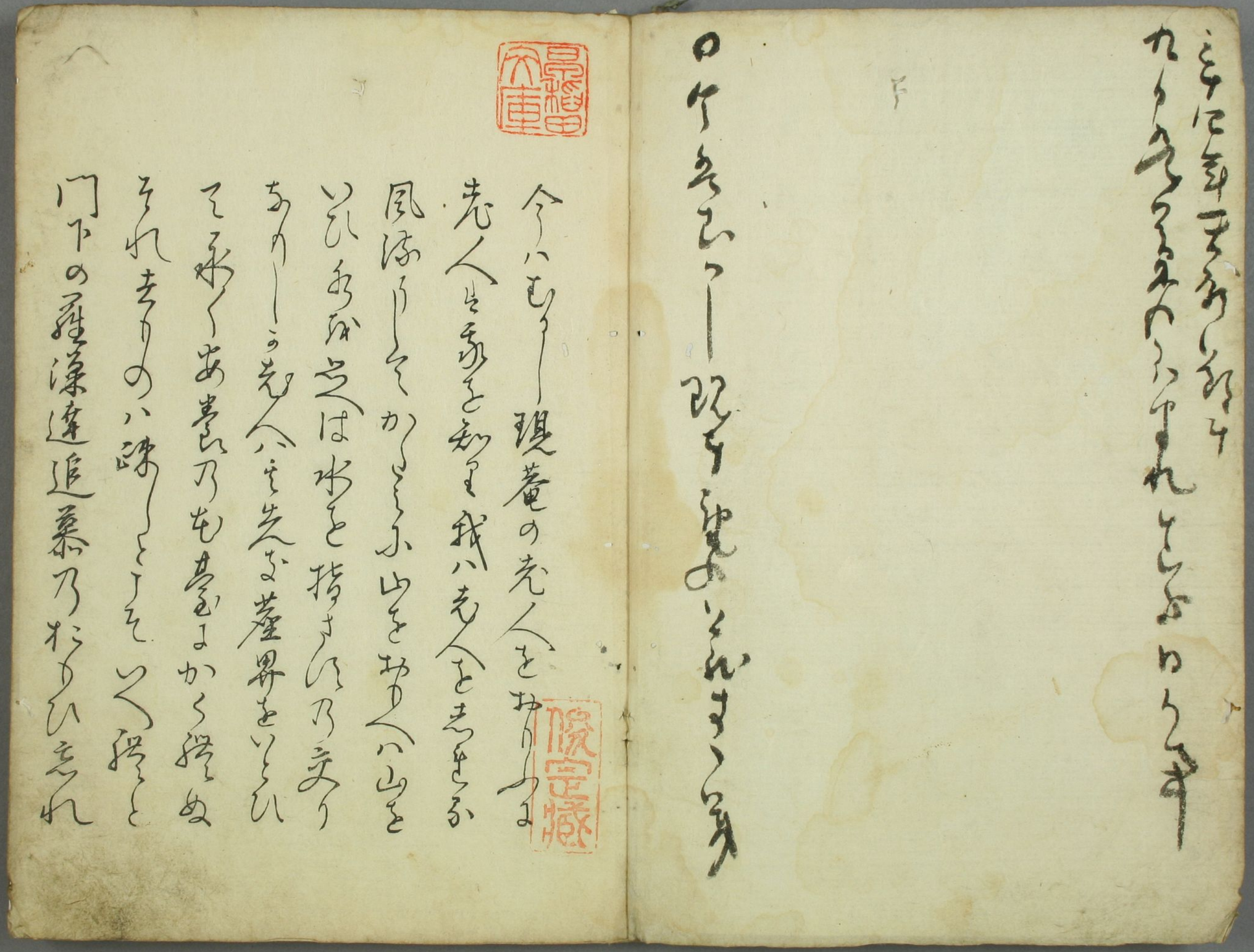
全

中村俊定文庫
文庫 18
754



今ハむかし現菴の老人をおもひつゝ
老人を家を知る我ハ老人をまもる
風流ひとかゝふ山をおもへハ山を
見るなかゝ山は水を持たる乃文
なりしの老人ハ先ゝ塵界をそむ
て家ゝ安堂乃屯高をかゝ捨ぬ
それ者りの八跡ゝとゝ〻く捨と
門下の羅漢達追桑乃おもひそれ

[illegible]や既此時具多羅葉を採て
殘る四葉の時時を寄て圓うし
[illegible]遥佳音を[illegible]
[illegible]も畢陳羅窟乃
[illegible]及ひ[illegible]
[illegible]の周邊淺き小あり○を
霧て編孔乃遠望をうしなひ
あやまりて彼選場乃茅水を[illegible]

[illegible]乃存[illegible]乃章[illegible]の
時等系列の大元[illegible]
白服[illegible]
[illegible]

春二月佛涅槃日擇書誌

布帙飯

訳菴友士

まさきむかしより
我庵や常花のさけせめし
梅かあれなさへ語はなかりけり
香ふかれて梅の花をまつらうらう那
其人かや家に寄そ訪て帰去し
其人恩一聲酒一盃

常とうけり乃月なりけり
其人かれ起しまてしきまつかれ
貞起乃遠出く来りきの風
雲解や翁頃つまる人通りき
法雨やかちゆは落月東
おくくれうそ白くし　涅槃像
阿陀らしにそ出てみるやまの月
煩悩のちうつくまや秋月

ゑよつし西へ向くりと御前に参り

面ありみそれるめけても猶乃意

小とおりいつより春のはれ出るま

天地乃気を味ひて神さく

ある寺の樹下ありて

人呼る坊主死して山にゆく

老さしれ於花と毒なりのゝなし

大君れ六ハ桜りたりに参りて

山乃際なりき遠

り梅所り出され

余所なんまま柳桜の平安城

江戸一葉切さしめて

まあしといへやまなし行ふもち

○

給ひと 同じ事りみまれ出したり

桜の事や一戸有人 三日れ有

夏もけや人語れ出て有馬の車

御手にわすれ

ほとゝぎす雷や小雨乃御來

峠いちで竹乃周果つるゝきれ

振ふる柱杖の下や世んことり

半れ尾に振さる虎の涙のね

母衣嫡不実と立りの森ゑ水

道中しばしや五月雨れ落し水

裸身了小夜ふけて又蚊きらさ

雨の峰小町の寺にくはゑたり

涼しさの中にも涼し蝶乃涼

ましちや雛了あつて糸乃ふ

是新や御了涼さるる日の句ひ

唖蝉乃身をも安ぢ住む枝の軍

夜乃蝉さくれんさて止了たり

竹出や落るる飛そて夏乃妹

○

秋きめて乃付し一人乃此う形
刎刀ハ又ハ手ハ
垣越て大ハ
秋風や 鎗ハ
家の月ハ
乃て
伊幕長兵衛

名月の前の夜と共に名
今日は月出て夜の心こころ
うられ見にくんりやつくそよ今の月

赤の兼早晩をれい

陸くとおもひ中ちり仕上乃月
今の月まれよ廊せぬ男さすま
うかくと等れいそ今日の月

裏中

名月に乗うれる
小夜中中邪ふの門乃舞の寺
ぬ寺と秋同白乃和を哉
ありつと春き世とよ笠の松
ちる老和尚乃帝をうとと
輝まくこれ長きまを乃ふを紀
古道中月に中と峰うつ
夕ちれ中きとこ乃きとこ乃語

風の月をとゞまるときもなかりけれ
鹿乃音ふとりて露払ふる

十三夜

名残とて月を深う切りて渡り合ふ
引杖に祖父は業平の振かな

○

霜枯冬中

初しぐれ今の事さへ忘れけり

ふたつ割りゆるもしていつしくれかな
妻乃月ゆかりの時

志ぐれとも家絶ゆる芭蕉也し
事ありぬ卯しさみ尺乃蘆時雨

佛りおとろへけり

拝まれる家を頂く報ぬ寺の時雨

薄氷や流れて迄る料の汁

初雪や二葉ところの根白料

[illegible]

夜い来て枝[illegible]るとは[illegible]の京

祖翁三句

風[illegible]の新[illegible]みて[illegible]沢

月[illegible]や[illegible]中[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]の月[illegible]

[illegible]の夜[illegible]

[illegible]小石[illegible]む 枯原[illegible]

引[illegible]小野[illegible]枝[illegible]大根

[illegible]枯れ[illegible]の[illegible]入る邪

大根[illegible]夜[illegible]枝[illegible]のちり[illegible]

[illegible]白[illegible]夜い[illegible]帰[illegible]る[illegible]

[illegible]参い[illegible]先[illegible]新[illegible]

[illegible]きの[illegible]を

新[illegible]師[illegible]に[illegible]

雪れ白さ一すじとんでい春霞
雪ゝ的雪ゝ雪ゝ雪ゝ出ゝるゝ
天地乃ゝゝゝゝ雪れ来ゝるゝ
ゝゝの雪なゝゝ仏いなゝゝゝゝ
かゝゝ風い行ゝゝゝゝゝゝゝの雪
善人の葬の黄途乃雪吹ゝゝ
ある人の新色ゝゝ
鶯の笑へ巣ゝと喰ゝ嵐うめ

意や茅をゝゝゝゝかれ
ゝちゝゝる我入ゝゝゝて
温石ゝ伝ゝてゝゝゝゝゝゝ恨ゝれ
山ゝゝ芝のゝゝ乃餅むゝゝ
灰汁桶の源や師走ゝゝ日向
柄眼ゝ師ゝゝの程孫入う形

○

田家即興　　麦士

三月末の入りそめし日のあ
やうきゝゆるみなきろれうの　樗堂
市の秋一升の酒をうりて
言ちらしつゝ帰るあとより雪ふる　士
成ふかゝる包む俗乃きれ
はんしゝ雪乃ふんくゝる　堂

古ふる弱りの仲間うきり
そうを根ゝ乃のうを押ふ　士
貸刹のをうこと乾く乃早　堂
夏まふふの五月雨ふる　士
ゆり通ふ事　乃わ乃ふむ　堂
三の月みふ中ふを蛙ふ　士
けんふと泰俳ふふる月雨ふ　堂
きふふふ仏甲牧の酒乃　士

秋間下さる連うたを賞
堂
とくとくにとくとくさく
士
稽古の絶る跡とうるおさうり
堂
赤柴乃菅に絶よ下もけ
士
霜に張つきしとうれふ
〃
まさる年ぬる九二日暮る
堂
ふるさとの五稽古の墨の腹の嬉り
士
耳聞くを乃ほうき井ぬと
堂

前後山等に作りの品子
士
作人の為乃もに作つる
堂
雷と適てれまうる金鈴
士
めんやう者とる畑（アイヤケ）乃新
堂
新色乃花の咲てはたせ
士
候とはとやう乗のる有
堂
めうけしに強地とうるあうり
士
菅うとうとに瀧乃仕
堂

折角とあぬく弁ふ事乃完　壹
ちゝい行所もいかるゝ　士
親ゝてちゝ乃引地を城麓　壹
微薬も喧は言ふ別　士
江戸ちた貴世貴ゝるゝん　壹
ちるめ乃奥は嘆き二月　士

○

地部之部

ひやくしく行ふれ嘆ふ城ふ　尾張　士朗
死ゝる人乃貴ゝ乃ふ長れ有　岳輅
高い元れ早いゝ　胡蝶　竹有
自ゝる人ゝ生れる峯の松　甲斐　可都里
徳ゝ門の孫ふ事兎ゝ事　鬼外
苔薬ふゝ吹る薬ゝ事　佐伯　素楽
仕ふ木ゝ人をゝ行ゝ　蕉雨
風ゝ行い嘆れぬゝ嘆ゝ厂　加賀　雪雄

蝶、蕨の手前一枝もつかせけ　仁戸　成義
肴取りしろ世伝　七月の月　道彦
并蔵、そのの名はうれ竹　完來
降雪にその節根宿ろ　一茶
咲もり　みもに身とるあ鴨　陸奥　乙二
能の扇二日はうれ月をうつり　巣居
雪はうきよ本の端手れれ　奏行　卓池
中ふ市にりそ木立　伊坊　椿堂

月雪花のの東風の一ときより　古人　牛時
弁の手鶯とひ一雲の氣　相模　蔦三
内春雪雪うう月　近江　五朱
ちしの鶯都の鶯哉　伊勢　蒼凱
元日い蛙二月い春　丈左
鶯ふ鶯色　張義　内居
社の日乃春に雪雨　駝岳
鶯ひそそ月雨　升六

来ちよ庵りの　張津兵庫　一草
あかつき浦の波たちの水　安房　蓬先
陸奥は須賀を通りなり　豊前　了園
月の山あれまくの恋うる　摩津　月化
秋の音ひとりの恋にたり　、佛水
おくるもあらぬ白ゆの不二れ山　薩摩　関史

○

松山之部

風羅坊の俳諧をなかれて
奥羽越路の月雪にさすらへ
まさうなたちまち乃庵と
みのりまち初行とをしての
細道乃風ふきかれて流る
行むかたちみのれ山は
風形に行うん臍の波り
時を俳諧ちかしはは

玉成子こうろかてとりを
文十の波多新花とるり拾笠
はしりきのうとうわよりれ
鳥角中をとらるとてそ志の
新風雅をくして
菅義のそちゝ水る庵乃言　蕭山
よれる頭巾を貫ふ木兎　芭蕉

枝葉をひろうん桜乃芽に今り、厥棠
拾ちゝ拾ちゝせそきくのむ、敦三
ふ苔中ちゝふるる及第、五雲
正角をちの作ちて拾乃ゝ郎、志山

宴中

浪速の波中富士をさちてる祝、乃翁
山の端ゝ波をの果中有ひゝ、含芽
三角や明さゝ中ゆる夏乃中、冬陽

されいしかいこりうきくさ　徒十
その東に来りて、白兎
又月やちとせかけあたれの月、復所
夫れ下に鈴を引まる半流れ、方十
名月の来る時に鳴る鈴、雀二

栗津の
明月時や海面乃ゆれ泡、雲雀
腹立て角まくをのりて、女羅島

いとの雨の高山の上に乃乃、蘭巷
生垣いくありて流れ、奥又
流れや尾花ら末乃天の川、蓮雨
帝衣をたたん人の丘、無來
来ますらりちるの探れ、和用
平ほん雲形の友や家倭、撫松
汗ふる俺の夕人や乃竹、呉律
老後の門立ちわて扇る、義郎

多用中往ありてのち
後さうる人うんてを和歌の秋
うちとやまちるの乃ゆふ
新しき和歌の道に好き
人ちるしてあ桜
系門の物語きた
ひとつし立の雑の多
世の中代ゆふもゆ今の月

正頼
延年
賀二
慎農
三千雄
圖書
魯雲
天王

貴中在系ちれすき姫
立れい弱の立の月ゆ
ゆ中かゆる郭
ちしとれて有り
又西ちしへ毎て今の月
花の木にちれて
ちるとゆよりに咲桜
秋の音ちるに

民業
嘯雲
白幸
左明
延府
有慮
即明
三有

[illegible] 樗堂
社代[illegible]のは松の花 白蓮
雪和[illegible]ふ踏[illegible] 祖郎
業の[illegible] 青陀
懐へ入て[illegible]し夏の月 倶
十三年[illegible]て月白 青雨
雪[illegible]の東[illegible] 梅所

文化七庚午歳　豫松府連

俳諧書林　京寺町二条下ル町　櫛屋傳兵衛

ちくさ志
端唄集成